

今年度に入ってから2回目の避難訓練を実施した。今回は、休み時間に地震が起こり、調理室から火災が発生したという想定。どこにいるかで取るべき行動は異なる▼運動場で遊んでいる子は、揺れがおさまるまで「ダンゴムシ」でしゃがむ。教室にいる子は机の下でしゃがむ。運動場にいた子はその後決められた場所に集まってくるが、教室にいた子は、防災頭巾をかぶりハンカチで口と鼻をふさぎ運動場に出て、決められた場所に集まってくる▼前回は、雨天のため、教室で揺れがおさまるまで待ち、防災頭巾をかぶって避難開始！というところまでしか実施できていない。1年生にとっては初めての運動場への避難であった▼その1年生が素晴らしかった。担任の先生のこの訓練に備えた事前指導の成果がうかがえる。6年生は、外で遊んでいた子と教室にいた子がはっきりと分かる。そして、なすべき行動を理解している。これまで何度となく避難訓練に取り組んでいる成果である。先生方の指導の賜物でもある。2～5年の担任の先生はそのプロセスにある。まさに指導の現場である▼いつ起こるかわからない災害、6年生が助かるだけでは困る。矛盾するが、全員が助かなければならない▼訓練は真剣に取り組む。だから教師は指導の手を緩めない。100点をめざすが、絶対大丈夫はない。避難訓練は、生き抜くための未完の挑戦なのだ。